

松蔭 校長室だより

—校長から保護者の皆さまへのメッセージです—

2016年6月1日 発行

松蔭中学校・高等学校

校長 浅井直光

学校間の生徒交流、教職員交流に思う

わたしたちの一つの体は多くの部分から成り立っていても、すべての部分が同じ働きをしていないように、わたしたちも数は多いが、キリストに結ばれて一つの体を形づくっており、各自は互いに部分なのです。
(ローマの信徒への手紙 12:04)

成長する生徒の姿を見る機会の1つに、他校との交流の場があります。神戸市中央区の市立盲学校とは、互いの文化祭を訪問する交流を35年にわたって続けています。本校の文化祭では、障害をもつ市盲生とペアになったボランティアの松蔭生が、校内の数センチの段差にも配慮しながら舞台や教室展示を案内しました。生徒会役員と共にいただいた昼食は、食物部員手作りの生姜焼き定食。120人前の準備は大変でしたが、とても美味しいと評判でした。車イスの方もおられましたが、講堂の入退場でも市盲生の優先通行を生徒全員がしっかりと守りました。GW明けには、神戸市須磨区にあるインターナショナルスクール、マリスト国際学校(神戸市須磨区)の生徒20名が来校し、中3・高1授業などで交流しました。本校の生徒にとっては英語学習の大きな刺激となり、先方の生徒は日本の学校空間に興味津々でした。引率された先生方からは、交流をより一層深めたいとの提案をいただきました。部活動では各校の合同練習会などもあります。ソフトボール部は、甲南女子、愛徳学園との3校合同チームで高校総体に出場しています。日頃の「内輪(うちわ)の付き合い」の「外」に踏み出す経験は、とても有意義です。

生徒だけではありません。教職員にとっても他校との交流は、日々の教育活動に直結する学びや気付きを促し、ひいては学校全体の活性化に役立っています。私学という交流の機会が少ない印象がありますが、公立学校に劣らず教職員や学校間の交流が行われています。松蔭は聖公会(英国国教会)のキリスト教主義学校ですが、先日、大阪のプール学院で関西の聖公会関係学校6校(平安女学院、桃山学院など)が集う六校交歓会が開催されました。全国の聖公会関係学校の教職員による宿泊研修会は毎夏8月に開催されています。キリスト教主義学校のなかでも聖公会関係学校だけが、このような交流会や研修会を長年にわたって続けてきました。また、日本私学教育研究所という全国の私学が加盟する組織は、各地区で私学教員を対象とした研修会を実施しています。

様々な枠組みのなかで私学教員も交流し、学びのときを持っています。図書館の司書の交流会、人権教育の研究会、カウンセリング研修での交流会、入試広報担当の先生どうしの情報交換など、様々な枠組みを通して私学どうし切磋琢磨し、教育の質をさらに向上させています。

学校の枠を越えた交流を通して、他校の生徒・教職員と触れ合い、刺激を与え合う。互いを尊重し、学びと気付きを得る。私は冒頭の聖書の箇所を読むたびに、各人が自分の置かれた場所で「部

分」として存在していても、大きな枠組みのなかでは常に「1つの体」に結ばれた存在であり、互いに必要な「部分」であることを思います。学校間交流は、大きな「財産」を与えてくれています。

リオ五輪へ、林勇氣さん(2002年度卒)・中村麻衣さん(2006年度卒)

8月5日、ブラジル・リオ五輪が開幕します。アーチェリー競技で北京五輪以来2回目の林勇氣さん、シンクロナイズドスイミングでロンドン五輪から2大会連続の中村麻衣さんが出場します。

リオデジャネイロは、大西洋に面した人口600万人の港湾都市。周辺には、街並みを一望するコルコバードの丘(巨大キリスト像で有名です)やコパカバーナ海岸があり、世界遺産「山と海との間のカリオカの景観群」に指定されています。ちなみに「カリオカ」とは、「リオっ子」や「リオ出身者」を意味します。日本との12時間の時差はまさに日本と正反対の地球の裏側ですが、季節は冬でも緯度の関係で温暖とのこと。リオといえばサンバカーニバルですが、リオと神戸が姉妹都市という関係から、神戸まつりには毎年サンバチームが参加することになったと聞いています。お二人には、関係者一同で力強い声援をおくり、健闘を祈りたいと思います。

6月27日(月)放課後、講堂で壮行会(高校生が参加)を予定しています。

土曜日の各講座・校内予備校について

現在、土曜日の授業を実施していない本校では、希望者対象の各講座を開講しています。英検対策講座(第1期)は1学期の始業式翌日から早速スタートし、現在109名が受講しています。中1生徒も準2級講座から4級講座までチャレンジしています。6月12日の第1回英検に出願した生徒には、全力を尽くしてほしいものです。先週の土曜日からは中1対象の英会話講座(40名受講)が全9回の予定で始まりました。高2、高3対象の校内予備校は4講座延べ101名が受講中です。多くの私学が土曜日授業を実施するようになりました。本校でも、より学びたいという声に応じて、土曜日の講座を充実させる必要があると考えています。

今年度PTA役員の方々が決まりました

各学期のPTA運営委員会(校長ほか、部長、学年主任など教員と、PTA執行部、各クラス代表委員が出席)では、PTA会計や学校からの報告のほか、様々な内容の討議を行います。昨年の運営委員会では、子どもの携帯(スマホ)やラインでのトラブルが話題として取り上げられました。秋のバザーの手作りの品・寄付品販売、文化祭でのPTA喫茶などは、保護者主体で運営していただいています。各クラス4名のPTA役員は、特別委員会(広報・生活・文化の3委員会のいずれか)に所属し、生活委員会は制服リサイクル運動や学校周辺清掃活動に取り組み、文化委員会は講演会や親睦バス旅行などを企画します。広報委員会が各学期末に発行するPTAニュースは高い評価を得ています。

マスコミでは、PTAは「ブラック」などと取り上げられることがありますが、松蔭PTAのモットーは「できる人が、できる範囲で、楽しみながら一緒にPTA活動」です。お子様によるせつかくのご縁です。役員をお引き受けいただいた方々はもちろん、すべての保護者の皆様には、松蔭ライフをお楽しみいただいたならば、幸いに存じます。